

平成23年度学校評価結果

学校名 大分県立別府青山高等学校

学校教育目標	中期目標	重点目標	○成果 ●課題
基礎学力の充実と心身の鍛錬に努めるとともに、人間相互の尊厳と信頼の理念を培い、民主的な社会の形成者として自立的でかつ調和のとれた豊かな人間性を養う。	①進学重視型単位制普通科高校として、教育活動の本格的展開を全教職員で連携・協力しながら積極的に進める。 ②学校の活性化に向けて、効率的な研修体制の確立と研修への恒常的な取組みを行い、授業力の向上に全教職員で取り組む。 ③「後期再編整備計画」を踏まえた学校の在り方を検討するとともに、家庭、地域、関係機関等との連携を強化し、地域とともに発展する学校づくりを目指す。	①一人一人を大切にしながら、分かりやすい授業の工夫、家庭学習の充実等を通して、希望する進路達成のための学力（進学力、就職力）の向上を図る。 ②基本的な生活習慣の定着を図るとともに、学校行事や部活動等の特別活動を通して、人間性豊かな生徒の育成を図る。 ③ホームルーム活動や総合的な学習の時間等を通して、3年間を見通したキャリア教育を充実させ、目的意識の向上を図る。 ④進学重視型単位制高校として特色ある学校づくりを推進する。	○分かりやすい授業の充実を目指して、職員間の互見授業のや指導教諭の授業観察などに取り組むことができた ○基本的生活習慣の定着を目指し、保護者と連携した登校指導によるあいさつの励行や始業前予鈴の実施、頭髪服装検査等に取り組むことができた ○キャリア教育を「3つの向上」という形で再編・整備することでその方向性が明確化された ○学校行事や部活動の活性化が図られ、生徒の豊かな人間性の育成できた ●「分かりやすい授業」の評価については、職員と生徒・保護者間の差異が大きく、分かる授業への更なる充実と家庭学習の習慣化が必要である ●進路希望達成のための学力向上を一層推進することが必要である ●挨拶の励行及び身だしなみについて、更に徹底する必要がある

学校運営計画			自己評価結果		学校関係者評価	分析・考察及び今後の方策	
重点目標	具体的方策	◆成果指標 ◇取組指標	評価領域	評価			
① 一人一人を大切にしながら、分かりやすい授業の工夫、家庭学習の充実等を通して、希望する進路達成のための学力（進学力、就職力）の向上を図る。	□習熟度別、少人数指導の充実を図るため、生徒の伸び率等成果を検証し改善に生かす。 □生徒による授業評価を実施し教師の自発的授業改善を促す。 □「進路だより」を発刊し、進路情報を適宜提供する。	◆各学年で設定した数値目標の達成 ・3年次生…全員の希望する進路保障と国立大学合格者数20名(難関大学1名)、4年次生進学率60%以上 ・1・2年次生…11月対外模試におけるB2ゾーン以上の人数が各40名以上 ◇具体的な数値目標の設定ならびに結果分析と教科、学年での組織的な取組の推進 ◇月1回程度の「進路だより」発刊	教務 キャリア教育	2	○英語・数学で習熟度別学習指導を行った。対外模試反省や生徒アンケートを実施し、編成替え・授業改善等を行った。 ○単位制の特性を活かした「自由選択科目」で発展的・応用的な授業を少人数で実施した。 ○「互見授業」を実施し、授業改善に努めた。 ○国立大学合格者が推薦・AO入試で13名合格(昨年度13名) ○1年次生…11月対外模試におけるB2ゾーン以上(60名) ●2年次生…11月対外模試におけるB2ゾーン以上(14名) ◇実力考査の結果発送時に「進路のだより」を同封するようになりたい。	・別府青山高校が目指している、多様性の人材育成については成果が上がっていると思う。さらなる充実を期待する。 ・別府青山高校が、新しいシステム作りの過程において、学年任せではない、学校として一貫性のある、キャリア教育の体制整備が必要である。	・教師の授業力向上に向けてさらなる充実が必要である。そのためには、授業改善に取組み、互見授業・提案授業の積極的実施及び研修に取り組む。 ・進学対策の取組については、学年・教科が生徒の現状分析をさらに綿密に行い、共通認識を持ち、生徒の育成を促す具体的取組が必要である。また、各学年・教科が対外模試における到達目標を設定しその実現に取組む。
	□朝読書等を通して国語力の基盤を形成するとともに、英語検定に積極的に挑戦させる。英語検定については、外部講師を活用した講座を開設し学習意欲を喚起する。 □生徒による授業評価を実施し教師の自発的授業改善を促す。	◆大学推薦・AO入試の合格者数増加、国語(各学年)対外模試の「読解力」正答率向上 ◇朝読書の継続実施、読書感想文・感想画の応募推進 ◆英語検定の2級取得10名以上と準2級70名以上 ◇外部講師活用講座の開催	教務 キャリア教育	2	○国立大学合格者が推薦・AOで13名合格(昨年と同数、高確率は今年が高) ○朝読書を年間を通じて実施した。図書館を積極的に活用してもらうため、「Meet the Library」を企画し、多くの生徒が参加した。 ●今年度、英語検定2級取得者5名、準2級取得者35名 ●進路に関する外部講師による講演会を1、2回は実施すべきであった。	・検定への取組をさらに進めてほしい。 ・図書館活動の活発さが評価できる。朝読書や読み聞かせなどの活動を通じて、さらなる人間性の育成に努めてほしい。	・国立大学への進学意識を、全学年で高めるとともに、大学入試の傾向と対策を共有する研修等を企画し、進路指導に活用する。 ・英語検定の全員受験・全員資格取得を推進する。また、そのための指導法を改善する。
② 基本的な生活習慣の定着を図るとともに、学校行事や部活動等の特別活動を通して、人間性豊かな生徒の育成を図る。	□チャイムに合わせて授業の始まりを厳守し、授業態度の確立を図り、「けじめ」ある生活習慣を身に付けさせる。	◇生活時間調査の実施と活用 ◆平均家庭学習時間 平日2時間、休日4時間 ◇各教科の課題提出状況の定着・向上	教務 キャリア教育 生徒指導	2	○生活時間調査を2回(4月、9月)実施し、面談等に活かした。 ○授業開始2分前に予鈴を鳴らし、本鈴で授業開始ができるよう工夫した。 ●生徒アンケートにおいて家庭学習習慣ができたと回答した者は45.6%	・家庭学習習慣への学校の取組には大変感謝しています。保護者としても学校と連携を取って家庭学習習慣の定着に取り組む時期にきている。	・家庭学習習慣の定着のため、授業改善と課題の工夫に取組み、学年+1時間の家庭学習の定着を図る。
	□1年次生においては、導入期の指導を徹底させ、自学力や家庭学習習慣の定着を図る。また、部活動生には両立を図るための部活生集会等の機会を持ち指導する。 □学習課題を出し、その取り組みを促す指導を強化する。	◇時間厳守状況の確認(管理職・担当者による計画的授業及び校内巡視)	教務	2	○1年次生で「学習方法講座」を実施した。(4/14、英数国) ○部活動清掃(月1)の際、学業との両立についても指導した。	・文武両道は今後とも青山高校の顔として、ますます充実してほしい。	

学校運営計画				自己評価結果		学校関係者評価	分析・考察及び今後の方策
重点目標	具体的方策	◆成果指標 ◇取組指標	評価領域	評価	○成果 ●課題		
② 基本的な生活習慣の定着を図るとともに、学校行事や部活動等の特別活動を通して、人間性豊かな生徒の育成を図る。	□保護者と連携した登校指導（あいさつ運動等）を展開する。（年10回 指導・PTA） □朝は生徒昇降口で学年ごとに頭髪・服装指導を実施する。特に毎週月曜日を遅刻防止も含め強化日とする。 □環境委員による清掃点検を定期的実施し、自主的の清掃態度を育成するなかで校内美化活動を積極的に推進する。	◇頭髪・服装常習違反者と遅刻数の増減数の分析 ◇「あいさつ」の励行状況の把握 ◆遅刻・欠席数（月別） ◇校内美化コンクール等の取組実施	生徒指導	2	○登校指導は指導部が正門で、各学年主任が昇降口で実施した。 ●校内美化コンクールが実施できなかった。 ●アンケートでは、職員は過半数が身だしなみの指導に取り組んでいると答えているが、身だしなみが身につけていないと答えた生徒が30%を超えている。	・服装や頭髪の整備、あいさつの指導など、学校と保護者が今まで以上に連携を深め、徹底した指導が望まれる。	・身だしなみの整備を最重要課題の一つとして、重点指導項目を設定し、全職員でその指導に取組む。
	□「危機管理マニュアル」の職員への周知徹底を図り、安全教育を強化し事故防止に努める。	◇職員の5W1Hによる報告・連絡・相談等の連携強化と生徒の安全意識向上の促進	生徒指導	3	○本年度は特に、災害時（地震・津波）の対応だけでなく、避難経路・避難場所等の確認を実施できた。		・災害時の安否確認を含めて、職員・保護者等の連携を図るシステムを完成させる。（HPの活用）
	□ホームルーム活動での人権学習の充実を図るとともに、支援を要する生徒に対しては職員間の共通理解と各学年・分掌の有機的連携を図り対応する。	◇生徒支援のための関係分掌の連携による指導の充実	生徒指導	3	○特設の人権学習の時間だけでなく、人権標語や人権作文を全校生徒に取り組みせることによって、生徒の人権意識を向上させることができた。 ●特設の人権学習については、他の行事との兼ね合いもあり時間の確保が難しい学年もあった。		
	□HR主任の面談等を通して、悩みを抱えた生徒への相談とその心理的解決を図る。そのために、教員研修の充実を図り、教師力の向上を図る。	◇悩みを抱えた生徒へ組織的対応とその解決に向けた取組 ◇適宜、事例に応じた教員研修の実施	生徒指導	2	○問題を抱えた生徒には、担任、保健室等と日頃から連携をとり対応することができた。 ●不登校生徒は、保健・教育相談の連携が不十分で、担任に負担がかかる部分が多かった。	・問題を抱えた子どもたちが、相談しやすい学校づくりに努めてほしい。生徒アンケートと職員アンケートの乖離については、次年度の課題である。	・教育相談体制について、保健係・教育相談係と、クラス担任との連携が図れるようにする必要がある。次年度は機構改革を含めて、連携強化の整備を行う。
	□生徒会行事の充実を図る。 □部活動の充実と下校時間を守らせる中で文武両道の推進を図る。	◇各行事の組織的取組やねらいの達成度(アンケート) ◆部活生の進路達成率(国公立大学進学者を含む)	生徒指導	4	○各生徒会行事（体育大会・文化祭・3年生を送る会）の内容検討ができた。 ○部活生の進路達成率(国公立大学進学者を含む)が向上した。 (試験前の学習時間確保)		・学校行事の取組をさらに精密にして、生徒の参加意識をさらに高める。 ・調査前の部活動自粛が機能し始めた。次年度は、練習時間（終了時間）の厳守と家庭学習時間の定着への指導にも努める。
③ ホームルーム活動や総合的な学習の時間等を通して、3年間を見通したキャリア教育を充実させ、目的意識の向上を図る。	□3分間スピーチ（1・2年次）の実施による表現力の育成を図る。 □進路情報の提供と高大連携・外部講師活用により進路学習の充実を図る。 □地域と連携した探究学習を推進し、班毎の成果を発表させる。 □キャリアカウンセリングの充実を図る。	◇ポートフォリオによる個人評価と情報の共有化 ◇進路学習の実践 ◇探究学習の実践と成果のまとめ ◆アンケートによる評価 ◇年間6回程度の面談	キャリア教育	3	○3分間スピーチ（1・2年次）は始めが12月からになったが、朝読書・LHR・総学時間を利用して実施できた。 ○高大連携・外部講師活用により学習意欲に結びつけられた。 ○計画とおり探究学習を実施し、班毎の発表を充実させることができた。	・3分間スピーチや朝読書など人間性の育成にさらに努めて下さい。	・キャリア教育の視点から、探究学習・3分間スピーチ・朝読書・先生の一講座などを「三つの向上」として整理できた。次年度は、それらを有機的に機能させて、進学力向上に結びつけていくことが課題である。
	□ホームルーム活動計画を早期に策定し、キャリア教育、生徒指導部等関係分掌と連携し資料のファイル化と共用できるシステムを作り、ホームルーム活動を充実させる □各種専門委員会活動の活性化を図る。	◇ホームルーム活動・各種専門委員会の適切な実施	キャリア教育 生徒指導	2	●HR活動と総学の連携ができず学年主体の運営になった。また、専門委員会の活動は、全ての委員会の活性化とはいわずに、限られた委員会だけが活発な活動を行った。		・教科全体で、指導方法等の課題を共有しその解決を図ることが必要である。そのことが、授業力向上へと結びつくこととなる。 ・英語検定。漢字検定への組織的取組をさらに推し進めることが必要である。
④ 進学重視型単位制高校として特色ある学校づくりを推進する。	□進学重視型単位制高校として、「教育課程評価」を行い、教育課程の工夫改善に努める。 □単位制教育課程の特色を生かして、英語検定等の資格取得を学修単位として認定する。	◇進路選択、進路実績、指導法(習熟度、少人数)、生徒の理解度(テスト結果)等の評価を実施 ◇教職員の一人一研究の実施	教務 キャリア教育	3	○教育課程に関しては、県教委の指導を仰ぎながら、教科会議・学年会議等で検討し、改善に努めた。 ○技能審査の成果の単位認定については、英語検定・漢字検定・書写検定で認定した。		

学校運営計画				自己評価結果		学校関係者評価	分析・考察及び今後の方策
重点目標	具体的方策	◆成果指標 ◇取組指標	評価領域	評価	○成果 ●課題		
④ 進学重視型単位制高校として特色ある学校づくりを推進する。	<input type="checkbox"/> P T A や同窓会と連携した行事や公開授業を実施し、開かれた学校づくりを推進する。 <input type="checkbox"/> 広報活動の充実を図る。(H P の更新、学校パンフ、新聞記事等)	<input type="checkbox"/> P T A との連携(登校指導(再掲)、文化祭等の行事) <input type="checkbox"/> おおいた教育の日に係る参観授業の実施 <input type="checkbox"/> 学校の教育活動におけるタイムリーな広報 <input type="checkbox"/> 行事実施後のホームページ更新	総務	3	<input type="checkbox"/> P T A 役員と毎月登校指導を実施し、登校時の安全に関する問題点について定期的に意見を交わすことができた。 <input type="checkbox"/> P T A と連携し文化祭、3年クラスマッチ、強歩大会にて大鍋作りを実施した。 <input type="checkbox"/> ホームページについては行事毎のタイムリーな更新ができた。 <input checked="" type="checkbox"/> おおいた教育の日に係る参観授業を計画実施したが、参加者は依然と少ない状況であった。	<input type="checkbox"/> 学校新聞や H P はスムーズな更新が不可欠である。タイムリーな情報発信にさらに努めてほしい。 <input type="checkbox"/> 保護者としては、学校新聞で学校の様子が分かり大変よかった。 <input type="checkbox"/> P T A 活動は、大鍋作りや広報・生徒指導など各部会が連携よく活動できた。今後もさらなる参加者の増加に取り組んでほしい。	<input type="checkbox"/> P T A 活動のさらなる推進が望まれる。また、学校新聞(青流速報版)や、学校 H P の更新を頻繁に行うことで保護者への情報発信に努める。
	<input type="checkbox"/> 文書管理システムの積極的活用を図り、業務の効率化を図る。 <input type="checkbox"/> 用紙類の使用量の削減、電気・水道等の節減、消防設備の安全点検等危機管理委員により定期的安全点検の実施に努める。 <input type="checkbox"/> 予算の計画的かつ効率的な執行を行う。 <input type="checkbox"/> 施設設備の整備改善等による学校運営の円滑化に資する。	<input type="checkbox"/> 文書管理システムの全職員による活用・情報の共有 <input checked="" type="checkbox"/> 経費節減、安全点検 <input type="checkbox"/> 適切かつ効果的な予算執行 <input type="checkbox"/> 施設設備の充実	事務室	3	<input type="checkbox"/> 文書管理システムの活用は全教職員に可成り浸透した。 <input type="checkbox"/> 用紙類の再利用や光熱水費等の節減により、トイレや教室等の小修繕が可能となった。 <input type="checkbox"/> 全職員の協力で不要物品の廃棄や執務環境の整備等が促進され、教育環境の改善に繋がった。		